

第114号

2007
Aug.

8

きずな THE KIZUNA

いとしご増刊

<http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

社団法人日本自閉症協会
奈良県支部ニュース

発行人：社団法人日本自閉症協会
石井哲夫
編集人：社団法人日本自閉症協会
奈良支部
支部長&事務局：河村舟二
〒639-1005
大和郡山市矢田山町 84-10
購読料1部 100円
会員は会費に含まれています。

平成19年7月29日帝塚山大学学園前キャンパスで自閉症協会奈良県支部もJDDネットメンバーとして共催した、講演会が行われました。スエーデンのマルメ大学総合病院ハビリテーリングセンターで作業療法士としてお勤めの、河本佳子先生からスエーデンの自閉症スペクトラムへの支援の内容を教えていただき、また我が国との福祉制度や仕組み違いに興味深く拝聴しました。医師・看護師・医療ソーシャルワーカー・特別教育教師・作業療法士・理学療法士・言語療法士・心理療法士・余暇コンサルタントがチームを組んで発達障害者等の支援に当たっていること。病院が日本と違い医療が保険点数制度ではなく、利益を追求しなくてよい点。障害を持つ人に、住む、働く（昼活動することがある）余暇自由時間を過ごすことが権利として、国や市などの行政が保障し、発達障害者のサポートシステムが追求されている点。とくに、この余暇文化活動を大切にし、生き甲斐を持って生活

できることが自立であり、障害者が、自ら選んで、判断して、今を生きるという考え方は強く、日本の衣食住を満たす経済的自立のために働くことを第一義とするものとは大いに違う

での支援の公平性、平等の考え。河本先生がスエーデン人といを披露して下さいました。日るのが常識だが、スエーデンで、各自が自分の食べる量と周切って食べるというのです。発育では、それぞれのスタートラまえであり、日本のように何歳
~~~~~  
いう考えはなく、わが子の学習身が留年をのぞむという興味深

## 河本佳子先生の講演会

という印象でした。教育や福祉方にも我が国とは違いが有りま日本人ではケーキの分け方の違本では人数分、等分に切り分けは丸ごとのケーキにナイフを添囲の状況を考えて、必要量だけ達障害児のみならず子どもの教インと到達点が違うのが当たりまでにここまで達しなければと  
~~~~~  
が確実に身につくために、親自いお話でした。

ハビリテーションについて
日本では障害者の療育はリハビリテーションと言うがスエーデンでは生まれつきの障害については復帰すべきモデルは考えません。社会復帰というリハビリではなく、障害者も自分の能力を発揮し人間らしい生活をし、よりよく生きるための「ハビリテーション」とであるとされています。（河村）

最後に 今回まとめ役をしていただいた バンジー代表の入船裕治さんからのメールを掲載をします。…本日の講演会お疲れ様でした。皆様のご協力を得て、講演会を無事終えることが出来、誠に有り難うございました。お蔭様で、日程的には告知時間がなかったにも拘わらず、70名以上の方のご出

席を頂き、河本先生の貴重な話を聴けたことは、大変有意義だったと思います。質疑についても、親御さんの悩みに的確なアドバイスもあり、私も「本人の自立とは、自らが身の回りのことが出来ることを言うのではなく、自分自身が選択して自らの意思で生きていけること」の言葉で発想の転換をさせて頂きました。

また、大久保先生には、大学の素晴らしい会場を設営して頂き有り難うございました。懇親会でも話に出ましたが、河本先生の毎年の帰国の折にこのような会が引き続き出来ますように、山田先生には来年もよろしく設営をお願い致します。今後もJDDネット奈良の会のあり方を定めて皆様と一致協力できるようよろしくお願い致します。まずは、本日の御礼を申し上げます。

■ 近のニュースから

■作品展：自閉症を乗り越え感性光る絵や人形ー桑名で森さんと黒田さん展示 /三重

(8月1日 毎日新聞) 自閉症を乗り越え作品作りに励んでいる桑名市安永、聖母の家学園2年、森駿介さん(16)と同市長島町、長島中学2年、黒田耕平さん(13)の絵画などを展示する作品展が19日まで、同市長島町の長島ふれあい学習館で開かれている。

2人は幼少のころから病気に負けず意欲的に描き続けている。赤や黄、緑など鮮やかな色を駆使し、独特の感性で描いた約150点の作品が、訪れる人たちをひきつけている。

森さんは、昔話の「さるかに合戦」を題材にサルやカニをさまざまな姿で描き続けている。21枚の絵で昔話を描いたものや目が大きく独特な姿のサルやカニを粘土で作ったミニサイズの人形を展示している。

黒田さんは、好きな動物を描くことを得意としている。ゾウやサル、キリン、カバなどを優しい姿で描いた小学校1年の時の作品や、「たべておいしかったです」の文字と一緒に大きなサツマイモを描いた中学1年の時の作品などを展示している。【沢木繁夫】(三重版)

■「発達障害」理解深めて 京都市福祉センター ブッ

る人や学校の先生、子育て中のお母さんにも読んでほしい」と話している。A5判、21ページ。問い合わせは同センターTEL075(354)8735。

■デイサービス：軽度発達障害児対象に個別プログラムで社会適応支援ー品川区 /東京(7月28日 毎日新聞)

品川区は今月から、軽度発達障害児を対象にした児童デイサービスを始めた。公立施設で同サービスを実施するのは都内で初めてといい、区は「子供の発達に関する相談が急増しており、支援が必要と判断した」と話している。

軽度発達障害とは、アスペルガー症候群や注意欠陥多動性障害(ADHD)など。知的発達に問題はないが、自分のこだわりが強く集団生活がうまくいかなかったり、授業を落ち着いて聞けないなどの障害がある。

同サービスでは、ゲームと課題を組み合わせた支援プログラムを個別に作成、早い段階から専門的療育を実施し、子供が社会に適応できるよう支援する。また保護者が子供の理解者になれるよう、心理相談も実施するほか、同サービスを保護者同士の交流の場としても機能させる。

対象は3～12歳で、定員は70～80人を予定。場

クレット作製(7月29日 京都新聞) 発達障害のある子どもたちのサポート方法を紹介するブックレット(京都市下京区・市福祉ボランティアセンター)

京都市福祉ボランティアセンター(下京区)はこのほど、発達障害への理解を深めてもらおうと、子どもとの接し方などサポート方法を紹介するボランティア向けブックレットを作製した。1000部発行し、市内の児童館などに無料配布した。

発達障害には、知的障害や自閉症などの広汎性発達障害、アスペルガー症候群などの高機能広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害(ADHD)などがあるが、症状や状態はさまざま。障害が見た目にわかりづらく、本人の行動が周囲の理解を得られにくい場合も多い。ブックレットは、同センターと京都おもちゃライブラリー連絡協議会が協力して作製。発達障害がある子どもを持つ親たちが中心になり、市内の家族を対象に行ったアンケートなどを基に、文章やイラストをまとめた。

冊子では障害の主な特徴を解説。原因は生まれつきの脳障害で、感覚統合がうまくいかないことを説明。写真や絵などで分かりやすく語りかけたり、体験学習を通じて理解を促すなど接し方のポイントを紹介している。

同連絡協の加賀谷久仁子代表は「ボランティアを始め

所は、知的障害児通園施設「区立品川児童学園」(同区南品川3)の2階を使い、社会福祉法人「福栄会」に業務委託する。同サービスは障害者自立支援法に基づいており、利用には区の認定が必要。利用料は1回500円程度。申し込み、問い合わせは区障害者福祉課療育支援担当(03・5742・6389)。【三木幸治】

■教員採用試験：公立学校、初の専門教諭採用試験 特別支援教育導入で別枠 /岡山(7月23日 毎日新聞)

県内公立学校の教員採用試験が20～22日、岡山朝日高校(岡山市古京町2)などを会場に行われた。学校教育法改正で今年度から盲、ろう、知的障害などに加え、学習障害などの軽度発達障害も対象にする特別支援教育が導入されたことを受け、今回初めて専門教諭を採用する試験があった。

受験者は計2628人で、昨年度より275人減。採用予定者数は計340人で、定員35人の高校教諭の倍率が最も高く17・6倍だった。

障害者教育は、これまで小、中学校の教諭枠で採用した教員を充てていたが、今回から別枠で試験を行い、専門教諭を採用する。定員約10人に対し87人が受験した。採用後は特別支援学校に統一された旧盲、ろう、養

護学校に配属され、一般校の特別支援教育への助言も手がける。【石川勝義】

■むぎのめ学園：体験学習スタート、来春の本格開校目指す／鹿児島（7月25日 毎日新聞）◇「生徒の自信を育てたい」注意欠陥多動性障害（ADHD）などの発達障害がある中高生を主な対象とした施設「むぎのめ学園」（鹿児島市川上町）で24日、体験学習がスタートした。初日は生徒10人や保護者ら計19人が参加した。むぎのめ学園は、発達障害の生徒に自分のペースで学習してもらおうと、同市の社会福祉法人・麦の芽福祉会の支援団体「協同の組織むぎのめ」が設立。体験学習は隔週で計10回、ゲーム、スポーツ、絵画や勉強などに取り組む。この日は黒川久美学園長が「安心で楽しく、皆さんの自信を育てていきたい」とあいさつした後、元小学校教諭のアドバイスで竹とんぼ作りに挑戦した。高機能自閉症の長男（14）と参加した母親（54）は「一般の高校でうまく適応できるかどうか不安で困っていた。ここで、学ぶ楽しさを感じてほしい」と喜んだ。黒川理事長は「一人一人の特性に合わせて教育の内容を試行錯誤しながら、来年4月の本格開校を目指したい」と話していた。今後も参加申し込みを受け付ける。問い合わせは同福祉会099・244・8201。【福岡静哉】

組みの遅れ、療育もしくは社会適合教育の組織的取り組みの遅れ等から、現実には課程、教育現場で大きな混乱が起こっている。

さらに、アスペルガー障害は知的に優れている人が多いのに、文部科学省では高等教育局に対応する専門組織がないため、彼らをどのように教育し、その才能を伸ばして職業に結びつけるかという視点が欠けたままになっている。これには初等教育から飛び級を含む現実的な対応および高度の職業指導訓練が必要であると思われる。

また、スムーズに学校を卒業し試験で選ばれる役所や大企業でも昨今問題になりはじめているが、職場での不適合からうつ病に追いやられたり、離職を余儀なくされたりするケースが増えつつある。また学校で不登校などのつまずきが起これば、永久に就職への道はふさがれてしまうという現実には、社会の人々はあまり注意を払っていない。学校や職場でのいじめによる精神障害を受ける危険性も少なくないし、また親や職場での無理解からまれに起こる特殊な犯罪に対する対策、さらには不幸にして犯罪を犯した人の「責任能力」の問題など、数多くの問題が未解決、未着手のままである。

さらには、スウェーデンで数年前にアスペルガー障害の人たちを組織したコンピュータソフトの会社が数年前



支部事務局に下記の書籍が届いています。閲覧希望の方は事務局まで連絡下さい。…各位 平成19年7月吉日 芦屋大学長 倉光 弘己「芦屋大学論叢第46号」の送付について…拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、このたび本学では、「芦屋大学論叢第46号（特集：アスペルガー障害研究Ⅰ）」を発行いたしましたので、謹呈させていただきます。ご高覧のうえ、ご感想、ご批判などいただければ幸甚に存じます。今後ともご指導御鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。 敬具：記送付内容：「芦屋大学論叢第46号」（特集：アスペルガー障害研究Ⅰ）1冊以上 〒659-8511 芦屋市六麓荘町13-22 芦屋大学大学院アスペルガー研究所 TEL：0797・23・0661 FAX：0797・23・1901…以下に巻頭の学長の文章を載せておきます。（河村）

芦屋大学論叢46号特集「アスペルガー障害研究Ⅰ」の発刊にあたって

芦屋大学がアスペルガー研究所を開設したのは、平成18年6月1日であった。この経緯についてはこの特集号の中で述べているので、ご参照いただきたいが、発達障害、なかんずくアスペルガー障害関係では、専門家の不足、医学、心理学、教育学などの諸分野の統合的取り

に作られたが、こうした職業開発にまで広げた組織的な研究は、まだ見られない。

私たちは、根気よく、こうした問題を組織的に解決してゆく努力を払ってゆきたいと考えている。こうした研究論文や研究ノート、さらにはレポート類を、定期的にまとめて発行してゆきたいと思っている。第1号は、芦屋大学論叢の特集号として発刊することにしたが、今後はアスペルガー研究所報として、発達障害の教育等に努力をしていらっしゃる組織や個人と、情報を交換する手段として発行を続けてゆきたいと願っている。

忌憚のないご意見や希望をお寄せいただくことを期待している。

平成19年6月吉日

芦屋大学学長 倉光 弘己



平成19年度独立行政法人福祉医療機構の助成による

「自閉症児者の自立生活・就労支援事業」

メンター養成講習会のご案内

(社)日本自閉症協会奈良県支部では19年度も自閉症の理解と療育・処遇の仕方を具体的に学ぶ講座を計画致しました。その講座受講の中からメンター希望者を募ります。

メンター (mentor) とは？

信頼のおける相談相手、良き師・先輩、助言者、庇護者

講習会は 相談やグループワークを行えるような人材の養成をめざし、「自閉症」の診断を受けた親たちへの情報提供をはじめ仲間作り、幅広い様々な支援ニーズに連携して対応しながら 草の根的にネットワークを組み、質の高い支援を展開できるような成果の蓄積をめざします。

内容	講師	北部会場	南部会場 10:30~12:30
相談技術と 基礎知識 (情報の伝え方)	中手 英子 氏 大阪千代田短期大学・ 臨床心理士	9月13日(木) 12:30 ~ 14:30 奈良県文化会館会議室	9月20日(木)ビデオ 奈良県心身障害者福祉センター (田原本)10:30~12:30
家族への支援	院長 姜 昌勲氏 きょうこころのクリニック院長	9月27日(木) 10:30 ~ 12:30 奈良県文化会館会議室	11月15日(木)ビデオ 奈良県心身障害者福祉センター (田原本)10:30~12:30
実技研修・ ロールプレイ	大西 和幸氏 奈良県発達障害支援センター (でいあ~)	10月4日 12:30 ~ 14:30 奈良県文化会館会議室	11月15日(木) 奈良県心身障害者福祉センター (田原本)10:30~12:30
サポートブック の 作り方	藤川 沙織氏 奈良YMCA	11月6日(火) 12:30 ~ 14:30 奈良県文化会館会議室	11月27日(火) 12:30 ~ 14:30 橿原文化会館会議室

参加費 無料

参加申込み 裏面に必要事項を記入の上 FAX 又は メールにて

FAX 0744-33-4755

E-mail m-ueshima@k2.din.ne.jp

申込み締め切り 9月10日

* 希望者多数の場合は 奈良県支部にて 選考させていただきます

メンター 養成講習申込書

平成 19 年 月 日

19 年度 メンター養成講習に 申込みます。

氏名 _____ (歳)

電話 _____

F A X _____

メール _____

お子様の 氏名 年齢 所属 兄弟の有無など

氏名 _____ 年齢 _____ 男・女

所属 _____

兄弟の有無 有・無

父	母	兄	姉	弟	妹	祖父	祖母	その他

* (社) 日本自閉症協会 奈良県支部 会員 ・ 非会員

* 現在の活動のご様子を 教えてください

参加希望会場 北部 ・ 南部

2007 年度独立行政法人福祉医療機構助成

「自閉症児者の自立生活・就労支援事業」

主催 社団法人日本自閉症協会奈良県支部

第 2 回講座のご案内

「自閉症児を就労へ導く子育て」 ～ 仕事ができる大人になるために～

講師 上岡 一世 氏

愛媛大学教育学部 教授

日時 平成 19 年

9 月 8 日 (土) 9 : 3 0 受付

1 0 : 0 0 ~ 1 6 : 0 0

会場 奈良県文化会館小ホール 奈良市登大路 6-2

近鉄奈良駅 番出口 東へ徒歩 5 分

参加費 5 0 0 円 定員 1 5 0 人

申込み不要 当日受付致しますので直接会場へ起し下さい。

問い合わせ先 FAX 0 7 4 4 - 3 3 - 4 7 5 5

m-ueshima@k2.dion.ne.jp

講師紹介：上岡 一世 (うえおか かずとし) 氏

高知大学教育学部卒。鳴門教育大学大学院修了。高知大学教育学部附属中学校教諭(特殊学級)、愛媛大学教育学部附属養護学校教諭、愛媛大学教育学部助教授を経て、現在愛媛大学教育学部教授、愛媛大学教育学部附属特別支援学校校長。専門は障害児教育。主に自閉症の人の自立や就労について研究している。著書に、「家庭との連携で就労＝自立を実現する教育」「こうすれば伸びる自閉症児の指導法」「自閉症教育の実践研究」(いずれも明治図書)など多数の書籍・論文があります。

(社)日本自閉症協会主催 発達・療育相談会開催のお知らせ(無料)

日本自閉症協会奈良県支部主催で、自閉症スペクトラム児の発達・療育相談会を行います。個人の発達相談で、1人1時間です。親子でなるべくおいでください。担任の先生を同伴しても結構です。相談員は、発達相談員、障害児学級教員、養護学校教員、支部役員、ボランティアによって行います。同じ悩みを持つ親の立場で相談を受けます。

問い合わせ・申し込みは FAX 又は メールにて ご連絡下さい。

FAX 0744-33-4755

E-mail m-ueshima@k2.dion.ne.jp (上島)

* 折り返し決定日時をお知らせします。

(社)日本自閉症協会奈良県支部 HP <http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

下記の日のどちらかに、第一希望 第二希望。をつけて、申し込んで下さい。

8月25日(土)()午前 ()午後 場所:大和郡山市福祉会館(8月18日締切)

8月26日(日)()午前 ()午後 場所:大和郡山市福祉会館(8月18日締切)

12月8日(土)()午前のみ 場所:奈良県中小企業会館(11月15日締切)

相談者氏名 又は 参加者		本人との続柄	
住所		〒 奈良県	電話 FAX
	生年月日	(よみがな) 年 月 日 () 才 名前 男・女	
	学校又は 職業	() 保育所・通園施設・幼稚園・小・中学校・高等部・就職・作業所	
	生活の場	自宅・施設 自閉症協会 1. 会員 2. 会員でない (○をつけて下さい)	

今回相談なされたい内容(事例提供・相談者のみ)

* お寄せ頂いた情報は相談会のご連絡や 相談会の開催以外には使用いたしません
のでどうかご安心願います。